



# 日刊 労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)  
電話(公) 千葉 2935・2936番  
043(222)7207番

93.5.14 No.3792

# ライトが交流センター5月合宿充電された



五月四・五・九十九里セントラル合宿

五月四日・五日の両日、開催された「労組交流センター・東日本合宿」は、二百名を超える会員が参加し、カンボジア内戦の激化、日本の政治・経済危機の深まり、大量首切り攻撃という

厳しい情勢の中、緊張と真剣な合宿となつた。テーマは、今日の世界・日本へのわれわれの闘いの指針について学習・討論した。内容はかなりハードなものであり、未消化の部分もあつたが、単に現象

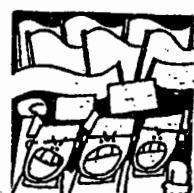
面の「評論」ではなく根本的掘り下げがされ、大変勉強になつたといえる。

また、夜各部会の交流会がもたられ、「運輸・交通部会(準)」には三〇名を超える仲間が出席し、夜遅くまで討論と交流が行なわれ、親睦と連帯が深められ、熱い気持ちで今後、交流センターの組織化に突入することが認められた。

二日目は、各分科会に別れ、さらに突つ込んだ学習が行なわれ、われわれがこの間たたかい、歩んできた道の正しさを確信するとともに、今後の闘いへの展望をつかみとることが出来たと思う。ただ一言だけ要望を言うなら、これらの未来を担う若者がもつとたくさん参加し、学び、交流して欲しいということです。

私としては、合宿で学んだことを今後の闘いに大いに活かしていく決意である。

国鉄闘争と反戦闘争の結合の中に日本労働運動の再生の道がある。共に、この道を歩もう!



# 無実の石川を取扱う！23狭山中央集会へ

無実の部落民・石川一雄氏奪還をかけた狭山闘争は、重大な局面をむかえています。

東京高裁は、三月に提出され

た弁護団の追加意見書をもつて、

五月にも狭山差別裁判第二次

再審請求を棄却する動きを強め

ているのです。こうした情勢の

中で、部落解放同盟全国連合会

は、三月二一日から一週間にわ

たる決死のハンストを打ち抜き、

## 狭山事件とは

一九六三年、埼玉県狭山市でおこった女子高校生の誘拐殺人事件で無実の部落青年、石川一雄さんが犯人にでっちあげられました。警察は市内の部落を「犯罪の温床」と差別的な見込みで捜査し、石川さんに、ウソの自白をさせました。新聞も一斉に「環境のゆがみから」と差別報道でつちあげに手をかしたのです。

石川さんは、この「自白」をたてにとられ、ロクな調べもされず、一審の浦和地裁はわずか数カ月で死刑判決。二審の東京高裁も、無実の叫びに耳もかさず無

## 第二次再審闘争の争点

第二次再審には、決定的な無実の新証拠がだされています。

元京都府警の文書鑑定主任が、脅迫状と石川さんの字とは明らかに違い、「字を書きなれた複数の人が、下書きして書いた可能性がある」という鑑定書をだしました。

東京高裁は、事実を調べるべきです。

の石川さんを一日でも早く取り戻すため、中央闘争に立ち上げろうとしています。

私たちは、階級的共闘の真価をかけ、侵略・差別との闘いを強めるという立場にたって、全

国連の呼びかけに応え、五・二三狭山中央闘争へ立ち上がりなければなりません！

ぜひ多くの組合員のみなさん

の決起を訴えます。

5.23

狭山中央闘争

5月23日(日)一一時

反合・運転保安確立！ 反戦・反核を担う労働運動を！